

2018年度退職教員

文学部着任以来、長きにわたり教育・研究ならびに大学運営にご尽力いただきました先生方が2019年3月31日をもって定年を迎えられます。退職記念講義が行われる場合は文学部校友会HPならびにFacebookにてお知らせいたしますので、ご確認ください。



春日井 敏之教授
人間研究学域
教育人間学専攻
2001年4月着任



桂島 宣弘教授
日本史研究学域
日本史学専攻
1995年4月着任



小田内 隆教授
国際文化学域
西洋史学専攻
1993年4月着任

同窓会・ゼミへの支援

クラス・ゼミの同窓会

研究入門
基礎講読
基礎実験実習
演習I・II
ゼミナールI・II(テーマリサーチ)
専門演習(I～IV)



専攻・プログラム同窓会

複数年度の卒業生が参加するもの

上記に該当する同窓会活動に関する経費を補助させていただきます。

■補助内容

同窓会開催に関する経費、記念誌印刷、案内郵送料、同窓会HP作成など同窓会活動に関する経費について補助します。

申請団体	補助の根拠	補助金額
専攻・プログラム 同窓会	同窓会規約。規約のない場合は専攻主任または教員の確認印。	実費支給上限50,000円
クラス・ゼミ	担当教員の確認印。確認が取れない場合は文学部校友会事務局に相談。	実費支給上限10,000円

申請方法など、詳細は立命館大学文学部校友会ホームページ「同窓会活動」のページをご覧ください。

<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/lt/koyu/index.html>

入会案内(2006年度以前にご卒業の皆様)

文学部校友会は、2007年度、文学部創設80周年を期に設立されました。現在では、約13,000名の会員様にご支援いただいております。

文学部校友会は、専攻の枠をこえた学部校友会として、専攻の同窓会とも協力しながら、卒業生のみなさまや文学部教職員・退職者が旧交を温めつつ、新たなつながりを築いていけるよう、運営に努めております。

校友会入会にあたっては、終身会費として1万円の会費の納入をお願いしております。趣旨をご理解のうえ、ぜひご入会いただき、より幅広い交流と、立命館大学文学部・文学研究科の発展にご協力いただきますようお願い申し上げます。

【文学部校友会入会手続きについて】

2006年度以前にご卒業の方が、新規にご入会いただける場合は、お手数ですが、下記までご連絡ください。

立命館大学 文学部校友会事務局
電話：075-465-8187(文学部事務室内)
mail: ltalumni@st.ritsumei.ac.jp

伝言板

■2018年度 哲学同窓会・懇親会

【日 時】2018年9月29日(土) 15時:受付開始
15時30分～:総会

【場 所】立命館大学朱雀キャンパス1F多目的室2(総会)
京都ホテルオークラ(懇親会)

■第45回 英米文学同窓会総会・懇親会

【日 時】2018年9月29日(土) 15時:開始予定
【場 所】京都ホテルオークラ

詳細は英米文学同窓会報と文学部校友会ホームページにてご案内いたします。

※哲学同窓会・英米文学同窓会は終了後、文学部校友会懇親会に合流予定

■2018年度 地理学同窓会懇親会(地理学・地域観光学合同)

【日 時】2018年12月1日(土) 18時:受付開始
18時30分～:懇親会

【場 所】立命館大学衣笠キャンパス内・究論館
【会 費】6000円 (2018年3月卒生は3000円)
【その他】懇親会開始前に地理学教室施設案内実施予定

詳細は、地理学同窓会から7月発送(配信) 予定の同窓会だより、または地理学同窓会ホームページでご確認ください。

■心理学専攻 動物行動研究室 閉室式

【日 時】2019年2月中旬～下旬 (予定)

総合心理学部動物行動実験室へと引継ぐため文学部動物行動研究室を閉室します。ご関心のある方は下記アドレスまでご連絡ください。詳細は決まり次第ご案内いたします。

連絡先:t-kashim@fc.ritsumei.ac.jp (担当:村上 嵩至)

原稿募集

文学部校友会報 LETTERS(年一回発行)では「校友の『いま』(近況報告)」、「伝言板(同窓会案内)」などの原稿を募集しています。詳しくは、文学部校友会ホームページをご覧ください。

訃報

名誉教授・前副総長 渡辺 公三先生 2017年12月16日ご逝去
＜文学部の在職期間 1994年4月～2002年3月＞

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

HP <http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/lt/koyu/index.html>

f Facebookもご覧ください。

秋のイベント情報

2018年度 文学部校友会懇親会

9月29日(土) 京都ホテルオークラ

くわしくはP.2で



ご挨拶

立命館大学文学部校友会 会長 いけのぼう せん こう 池坊 専好

2017年秋の総会において立命館大学文学部校友会の会長を仰せつかりました。名誉会長の中小路宗隆様には長年にわたり校友会をよりよい方向へと導き頂き、また役員の方々には献身的な御協力を頂きまして本当にありがとうございました。これまでのご功績に心より敬意を表しますとともに、これからもお健やかに校友会の行く末を見守って頂き、様々な御助言を頂戴できたらと願っております。仕事柄あちらこちらに参ることが多くありますが、その度ごとに全国で立命館出身の方々の御活躍にふれることがあり、とても嬉しく感じています。そしてそれと共に、様々な分野で活動されておられるおひとりおひとりの存在とお力を校友会という絆によってより強く結びつけることができ、より光をあてることができたら、またそのことが社会における立命館の理解と評価向上にもつながればなんと素晴らしいことでしょうか。

おりしも文学部校友会は2017年に設立10周年を迎えました。昨年の記念事業の盛況はまさに母校に対する熱い思いの表れであったと思います。校友会は卒業生にとって学生時代を思い出す懐かしい場であり、同級生はもとより先輩や後輩と語り合う和みの場であり、またこれからに挑戦するエネルギーを得る創造の場でもあります。日本の私学が数多くある中で、立命館が建学の精神とこれまで先人たちが紡いでこられた歴史、伝統を守りながら、さらにこれからの日本に大きな役割を果たせるように応援したいと思っているのは、私たち卒業生の共通認識ではないでしょうか。皆様方のお知恵を頂戴しながら、より多くの方々に喜んでいただける有益かつ有意義な校友会づくりに取り組んでまいります。どうぞ校友会活動に積極的に御支援、御協力下さいますようお願い申し上げます。

(2012年 文学研究科 人文学専攻博士課程前期課程 日本史学専修修了 華道家元池坊 次期家元)



学部長ご挨拶

立命館大学文学部長 **上野 隆三**

立命館大学文学部校友の皆様には日頃より文学部へのご支援ご協力を賜っております。この場をお借りいたしまして、厚く御礼申し上げます。昨年は文学部創設90周年に当たりまして、イベントへのご参加を始めといたしまして、様々な形でのご協力を賜りました。重ねまして心より感謝申し上げます。

さて、文学部では2012年に8学域18専攻制へと学部改革を実施しました。学生諸君が多角的視点から人文学を学べるよう、既存の専攻に新専攻を加えた複数の専攻を組み合わせた学域を構成し、入試を学域単位で実施し、2回生から希望する専攻に分属する仕組みを構築しました。これにより、21世紀の新たな人文学的「知」が発信できる体制が整えられたものと確信しています。また、2016年からは、中国文学専攻が中国文学・思想専攻に、東洋研究学域が東アジア研究学域と名称変更いたしました。当面この学域・専攻制度は維持しますが、現在もよりよい学部を目指して、次の改革の議論を進めております。

文学部教学の国際化に関しましては、日中韓の学生がそれぞれのキャンパスを移動しながら学び合う「キャンパスアジア・プログラム(CAP)」が、文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」第2期に、第1期に続いて採択され、2016年度からはCAPの常設化プログラムが開始されております。いま文学部のCAP常設化1期生と2期生は約20名が韓国、約20名が中国で学び、立命館大学文学部では中国と韓国のCAP学生合計40名が学んでいます。マスコミにも多数取

り上げられるなど、相変わらず注目を集めているCAPは、文部科学省からSGU(スーパー・グローバル大学)に認証された立命館大学の、国際化の取り組みの一翼を担うものとして期待されています。このほか、英語圏やアジア圏、欧州にも新たな短期海外派遣プログラムを新設するなど、さらなる国際化に挑戦を続けています。

なお、2016年4月に総合心理学部がOIC(大阪いばらきキャンパス)に開設されたことにともない、2018年度は、心理学専攻の4回生以上が衣笠で学び、3回生以下が総合心理学部生としてOICで学んでいます。心理学専修の大学院生の一部は衣笠で学んでおりますが、2018年4月に人間科学研究科がOICに設置され、文学研究科心理学専修の募集はすでに停止しております。心理学の拠点は徐々にOICに移っておりますが、文学部、文学研究科として入学した学生については基本的に衣笠での確かな学びを保証し、卒業後は文学部校友として活躍されることを期待しています。

また、長らく文学部の基本棟として使用しております清心館ですが、2019年度に大規模改修を行います。その間、文学部の機能の多くは洋々館に移りますが、2020年春には、新しい清心館で文学部の新しい学びを始める予定です。どうぞご期待ください。

冒頭にも申しましたように、このような文学部、文学研究科の発展は、校友の皆様方の支えが無ければ決してかなわなかったものだと考えております。改めて感謝申し上げますとともに、今後も変わらぬご支援のほど、お願い申し上げます。

2017年度 文学部ゼミナール大会 文学部校友会長賞

「香川県男木島における観光振興の現状と課題」

地域観光学専攻3回生(受賞当時) **栢原 沙世子** さん 京都学専攻3回生(受賞当時) **藤田 佳子** さん

この度は2017年度文学部ゼミナール大会において「香川県男木島における観光振興の現状と課題」というテーマで発表し文学部校友会長賞を頂けたこと感謝申し上げます。

私達は所属するアウトドアサークルの活動で毎年男木島でのキャンプを行っております。その際男木島を訪れている観光客が年々増加し島の様子が変化しているように感じた為この研究を始めました。

普段受動的に授業を受けている私達にとって本大会への参加は自身への挑戦であり、また研究内容を他に発信することは大変有意義な時間でした。賞を頂けたという成果とそれによって高まった学習意欲を今後の大学生活に活かしていきたいと思います。

右)指導教員の 藤巻 正己 特命教授と栢原さん(右)、藤田さん(左)
下)男木島灯台と夕陽



特集①

2018年度文学部校友会
懇親会案内

LETTERS Vol.10

2018年度 文学部校友会懇親会

日時

2018年9月29日(土)
17:30~20:00(17:00受付)

会場

京都ホテルオークラ 4F 暁雲
京都市中京区河原町御池 TEL.075-211-5111

企画①
ミニ講義



プロフィール

小野妹子を道祖として仰ぎ、室町時代にその理念を確立させた華道家元池坊の次期家元。2015年に専好襲名。京都にある紫雲山頂法寺(六角堂)の副住職も務める。いのちをいかすという池坊いけばなの精神に基づく多彩な活動を展開。

企画②
演奏会



今年で創団55年目を迎える立命館大学唯一の混声合唱団です。コンサートやコンクール出場、定期演奏会など、積極的に活動を行っています。

多数の先生が参加されます。奮ってお申込ください。参加の先生については、文学部校友会Facebookなどで、順次お知らせする予定です。

ミニ講義・演奏会のほかに、お食事を用意しています。世代を超えてご歓談ください。

◆参加対象

先着250名 定員に達し次第、受付を終了させていただきます。

文学部校友会員 ※文学部卒業生

※立命館校友と文学部校友は異なりますのでご注意ください(詳細は、会報P.7「入会案内(2006年度以前にご卒業の皆様)」をご覧ください)。

◆参加費

文学部校友会員 **2,000円** 非会員(入会いただいていない方・同伴の方) **3,000円**

2017年度卒業生(2018年3月・2017年9月卒)、卒業後10年(2008年3月・2007年9月卒)、卒業後50年(1968年《昭和43年》3月卒)の文学部校友会会員の方は、無料ご招待いたします。

◆申込締切

8月31日(金)までに、この会報「LETTERS」vol.10折込みハガキでお申込ください。

定員に達し次第、受付を終了させていただきます。文学部校友会HP、Facebookにて、受付状況をお伝えしていきますので、ご覧ください。

◆お問合せ

文学部校友会事務局 TEL. 075-465-8187 FAX. 075-465-8188 月~金曜日 9:00~17:30(土日祝日を除く)

2017年度活動報告①

文学部創設90周年
文学部校友会設立10周年記念式典・記念講演会
文学部校友会第6回総会・懇親会報告

- ◆日時 2017年11月18日(土)14:00～19:30
◆会場 京都ホテルオークラ

記念式典

文学部創設90周年・文学部校友会設立10周年を記念し、これまでの学部教学の歴史や文化の歩み、文学部校友会の歩みを振り返り、未来に向けた学部教学・研究、校友会の発展について考える機会として開催しました。

記念講演会

裏千家第15代・前家元 千 玄室氏に「茶のこころ、日本のこころ」をテーマに、戦時中の一碗のお茶とご友人とのお話、茶道外交を通して出会われた方々とのエピソードなどについてご講演いただきました。



千玄室氏

総会

中小路宗隆会長のご挨拶の後、2015年度・2016年度活動報告、収支報告、監査報告があり、決算が承認されました。



中小路宗隆名誉会長



池坊専好会長



続いて、2017年度事業案および予算案、校友会役員体制、名誉会長について提案があり、いずれの議題も承認されました。

■2017年度・2018年度 役員体制

会長	池坊 専好 (文学研究科日本史学専修)
副会長	志磨 慶子 (哲学専攻) 河原 典史 (地理学専攻)
常任幹事	高儀 智和 (日本文学専攻) 南 健一 (東洋史学専攻)
名誉会長	中小路 宗隆 (哲学専攻)

懇親会

上野隆三学部長のご挨拶の後、茂山千五郎家(茂山千五郎氏、茂山逸平氏、松本薫氏)による狂言(演目:蝸牛)があり、会場は笑いにつつまれ、和やかな雰囲気となりました。



茂山千五郎家による狂言

その後はテーブルに並んだ多彩な料理を囲んで、にぎやかにご歓談いただきました。恒例の大抽選会では、合計71本の景品が会場のみなさんに当たり、大きな盛り上がりを見せておりました。続けて文学部校友会の新会長に就任された華道家元池坊 次期家元 池坊専好会長からのご挨拶も頂戴し、新たな体制の下、文学部創設100周年に向け、今後も校友のみなさまと共に歩みを進めていく決意を新たにしました。そして、およそ400名の方に参加いただいた一連の催しは盛況のなか、閉幕となりました。

2017年度活動報告②

京都文化講座(後期)
京の遠近・都の東西

2017年度前期に続けて実施しました。

「遠近(おちこち)は空間的な距離だけでなく、歴史的な時間も含めた概念を、東西(あちこち)は東京との比較だけではなく、京都を取り巻く問題のすべてを意味する」という全体テーマの下、立命館京都学を担う教員が各回の講座を行いました。

立命館大学文学部創設90周年・文学部校友会設立10周年にあたり、包括協定を結ぶ神奈川近代文学館と連携し、立命館東京キャンパスにおいて、「京の遠近・都の東西(きょうのおちこち・みやこのあちこち)」を開催いたしました。これは文学の楽しみを縦横に味わう講座として、

- 第1回 10月28日 美川 圭(文学部教授)
日本中世の譲位(生前退位)について
- 第2回 11月4日 東島 誠(文学部教授)
京都大改造の代償ー豊臣秀吉と近代
- 第3回 11月11日 河角 直美(文学部准教授)
『京都市明細図』で探る近代京都の生活空間
- 第4回 11月25日 川崎 佐知子(文学部准教授)
予楽院近衛家熙のお菓子
- 第5回 12月2日 須藤 圭(文学部助教)
鞍馬山に「光源氏」をさがしてー京都という装置
- 第6回 12月9日 田中 聡(文学部教授)
「古都」像の変容ー平安京はどのように再発見されたか

専攻紹介ピックアップ
多面的に教育・人間・心について考察する

人間研究学域 教育人間学専攻 春日井 敏之 教授

教育人間学専攻は、2001年に開設され18年目を迎えました。これまで、いじめや不登校など困難な教育課題の解決を目指すという実践的な課題に対して、対症療法的な方法によるのではなく、「意識」あるいは「心」に着目しながら、新たな人間観、教育観を創出することによって、理論的・実践的に対応していくことを重視してきました。養成する人間像については、①既存の学問的・社会的通念を批判的に問い直すなかで、新たな「心の教育」の可能性を理論的・実践的に探究する。②「人間形成」、「臨床教育」、「心理健康」という3つの観点から、多面的に人間・教育・心について考察する。③実験や実



2016年度 第10回教育人間学会研究大会シンポジウム

習により身に付けた知識と技能を将来の実践に活かす。
④教員や友人との議論や交流を通して自分自身の見識に磨きをかけ、さらに自らの身体や心を体験に投じることによって、独自の人間観、教育観を育む、ことを柱にしてきました。

私の担当する臨床教育ゼミでは、毎年、3回生の秋に学校等訪問研修を行い、4回生の秋には卒論検討のためのゼミ合宿も行い、ゼミ生たちの活発な議論が展開されています。臨床教育学の視点から、文献研究と実践研究の双方を重視していく。できれば各自が、どこかで子どもや青年と関わるフィールドを持ち、自身の経験も意味づけながら、研究を深めていくことを推奨してきました。専攻では進路選択について、時には失敗したり、立ち止まったり迂回したりすることの意味も大切にしてきました。そのことによって、物事を俯瞰的に捉えたり、自分とも向き合ったりしながら、社会に着地していく幹の太い人間が育っているからです。今年11月24日(土)には第12回教育人間学会研究大会が、衣笠キャンパスで開催されます。



2018年度教育人間学専攻春日井ゼミ3回生

文学部校友の「いま」



文学部校友の「いま」

やまもと まさかず
山本 雅和さん

文学研究科日本史専修
1989年修了
公益財団法人京都市
埋蔵文化財研究所

考古学研究室、卒業生・専攻生の「いま」

昨年度は立命館大学文学部に考古学ゼミができてから30年目の節目でした。和田晴吾先生(立命館大学名誉教授)の着任後、何度かのカリキュラム変更はありましたが、現在の考古学・文化遺産専攻に至るまでの卒業生総数は、約650名にのぼります。

私は最初のゼミ生として卒業後、京都市埋蔵文化財研究所に就職して今年で30年目を迎えております。職場では在学中に学んだ専門知識・技能に更に磨きをかけ、積み重ねを続けて、京都市内の遺跡の調査・研究や文化財の普及啓発活動に元気に取り組んでいます。その間、幸いなことに縁あって博物館実習生の受入れや非常勤講師として授業を担当

したことから、「研究室の通い番頭」と、からかわれながらも、各世代の後輩たちが学び、卒業して社会人として活躍するようすに接してきました。

さて、去る5月4日、和田先生のご祝賀会を兼ねた同窓会を開催いたしました。会には約120名の卒業生(在学中の大学院生を含む)が各地から集まり、久しぶりの再会を喜びとともに、「相対的な」先輩と「相対的な」後輩とが近況を語り合い交流を深めました。「元気に明るく楽しく」学び、学年に関係なく仕事や研究の成果・悩みを共有できる仲の良い研究室の雰囲気、これからも続いていくことを願ってやみません。



文学部校友の「いま」

いのぐち まいか
井野口 舞香さん

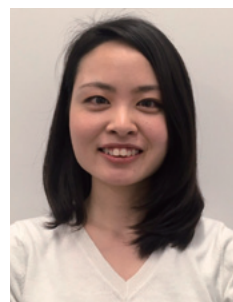
国際プログラム
2008年卒業
フォーシーズンズ
ホテル京都

夢の先に、また夢を描く

2008年に国際プログラムを卒業し、株式会社プリンスホテルに入社しました。フロント、営業職を経験した後、学生の頃からの夢でもあった長期語学留学を実現させるべく、社会人5年目で退職し、渡仏。大学では第二言語として学び、社会人になってからも教室に通いながら学び続けたフランス語を、その国の文化に浸りながら学ぶことのできた、贅沢な時間でした。滞在中は異業種(ソムリエ、シェフ、パティシエ等)との交流から刺激を貰い、異なる国から集った友人とは互いの文化や慣習を理解し合うところから、認め合える存在として共に学び、他を受け入れるフレキシブルさが自然と身についていったように思います。

帰国後、一昨年からフォーシーズンズホ

テル京都にて、社会人一年目からの夢でもあったコンシェルジュの仕事に就きました。ゲストの多くは海外からお越しの方で、また同僚も外国人が多く、留学で身につけた語学力とフレキシブルさを社内でのコミュニケーションにも生かすことができています。観光案内からレストラン予約、ガイドさんやお車、新幹線チケットの手配、着物の着付け体験、花街で開催される踊りのチケット手配等に至るまで、依頼は多岐に渡ります。特に春と秋は多忙を極めますが、ゲストが京都でのひとときを楽しみお手伝いをしてあげることができる喜びを感じ、私自身も心から仕事を楽しむ姿勢を大事に取り組んでいます。



文学部校友の「いま」

さかい はるな
坂井 榛菜さん
(旧姓 小坂)

英米文学専攻
2014年卒業
株式会社村田製作所

違いを受け入れること

私は2014年に英米文学専攻を卒業し、この春で卒業してから大学生活と同じ4年が経過しました。会社においても、プライベートにおいても自分の立場は変化し、この4年間の時間の速さを感じています。

現在は株式会社村田製作所に勤務しており、入社してから現在まで、海外駐在員や外国人従業員の給与業務に携わっています。年々変化する日本の税・社会保障制度への対応や、海外各国の制度に関する知識が必要となりますので、新たな学びや発見が多い仕事です。

また、海外関係会社や外国人従業員とのやりとりが多いため、日本と各国の文化や考え方、仕事の進め方の違いを日々痛感しています。

私自身、学生時代の留学の経験からそういった違いに対する抵抗は少ない方なので

が、日々の仕事の中では、相手の考えを理解できずすんなりと受け入れることができなかったり、逆に自分の考えが相手に受け入れられなかったりと、自分の未熟さを感じることも多々あります。

一方で、違いがあるからこそ新たな気づきがあり、協働することで新しい価値を創出できることも多いと思いますし、世界中の仲間と1つのチームで仕事ができることや、同じ目標を達成できた時の喜びは、仕事の面白さを感じる瞬間でもあります。

一言に「違いを受け入れる」ということは簡単なことではありませんが、その違いこそが武器になると信じて、自己研鑽を怠らずにこれからも頑張っていきたいです。



文学部校友の「いま」

おおにし ゆうき
大西 裕樹さん

教育人間学専攻
2012年卒業
京都市立西大路小学校

出会いと経験を糧に研鑽を重ねる今

私は、教育人間学専攻に所属し、小中高の教員免許を取得後、現在京都市の小学校で勤務をしています。現在、勤務する小学校では研究主任という立場で、日々児童一人一人と向き合い、指導と支援を重ねています。

今、大学生活を振り返ってみると、「数多くの出会いと経験があったからこそ、今の私がある」と強く感じています。様々な価値観をもつ人との出会いの中で成長することができた、そして経験を重ね、自分と向き合い、見つめ直すことで、夢や目標に向かって努力できたそんな4年間でした。教職課程や学部のゼミで出会った仲間、先生方とは今も交流が続いています。

4年間、様々な経験をしましたが、特に大きな転機になったのが3回生の時でした。私は、教育や福祉の現場を肌で感じようと、学部インターンシップ「子ども・青年の居場所づくりイン

ターンシップ」に挑戦しました。

南区にある児童館では、地域の中高生が「学校帰りにふらっと立ち寄れる居場所づくり」を目的とした「ヨルのジドウカン」を設置しています。月1回、レクリエーションや料理、おしゃべりなど何でも自由にできる空間として、中高生向けに、夜間に児童館を開放しています。大学生当時、私は、スタッフとして参加し、企画・運営にあたりました。今、現在も学校現場とはまた違う一面を見せる子どもたちとの関わりを大切にしたいと考え、ボランティアとして中高生とスタッフのサポートを続けています。

大学生活4年間で培ったことを糧に、これからも目の前の児童一人一人との出会いと関わりを何より大切に、小学校教員として研鑽を重ねていきたいと考えています。

料金受取人払郵便

京都北郵便局
承認

8051

差出有効期間
平成30年6月15
日から平成32年
6月14日まで

郵便はがき

603-8789
002

京都市北区等持院北町56-1

立命館大学 文学部事務局
文学部校友会 事務局 行



(キリトリ線)

お問合せ先

立命館大学 文学部校友会事務局 TEL:075-465-8187
月～金曜 9:00～17:30(祝日を除く)

2018年度 立命館大学文学部校友会 懇親会 参加申込書

日時 2018年9月29日(土)

場所 京都ホテルオークラ

フリガナ	
お名前	(旧姓:)
校友会員番号	※宛名ラベルに記載の番号が校友会員番号です。
ご連絡先 住所・電話番号 メールアドレス	(〒 -) TEL: Email:
ご卒業年月	年 月卒業
ご出身の専攻	学科 専攻・プログラム
掲載可否	当日配布予定の「参加者一覧」(氏名・卒業年・専攻のみ を記載)への掲載可否(どちらかに✓をつけてください) 掲載 可 ☐ 掲載 否 ☐

フリガナ	
同伴者 氏名	

申込締切 **8月31日(金) 必着** をお願いします。

※お申込みいただいた方の個人情報は、本事業の実施以外に利用することはありません。

(キリトリ線)